

I 実践

1 研究主題

「自他の良さを認め合える生徒の育成」
～いじめ撲滅のための取組を通して～

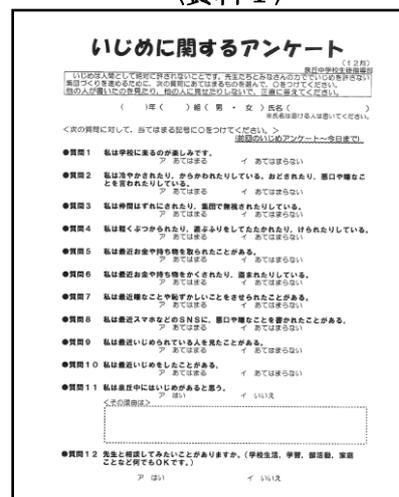
(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は「自らを高め、心豊かで力のある人になれ—自ら考え、自ら律し、自ら鍛える—」である。生徒一人一人がそれぞれの目標に向かって主体的に努力できるような取組を行っている。しかし、本校のQUアンケートの結果から、各学級に自己肯定感の低い生徒がおり、自分の大切さや他の人の大切さを認められるような環境づくりや働きかけを実態に合わせて取り組む必要がある。文部科学省の調査においては、いじめの様態別状況として最も多いのが「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」であり、自他を大切にす実践的な態度を養うことも必要である。そこで、いじめ撲滅を目指した様々な取組を通して、自他の良さを実感し、大切にすることができる生徒の育成を目指し、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア いじめの実態把握のためのアンケートの実施
 - (ア) いじめアンケートの実施
 - (イ) QU アンケートの実施
- イ 道徳の授業「ピンクシャツデー」の取り組み(第2学年)

〈資料1〉



2 実践内容

(1) 実態把握のためのアンケートの実施

ア いじめアンケートの実施(資料1)
本校では、いじめの実態把握をするため、毎月いじめアンケートを実施している。アンケートの目的は生徒のいじめの実態把握ではあるが、自由記述欄や相談の有無の確認を通して生徒一人一人の思いや悩みも確認することができた。

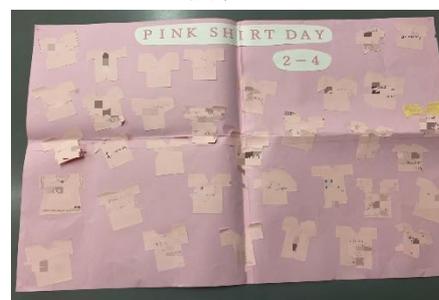
(2) イ QU アンケートの実施

本校では全学年で年2回、QU アンケートを実施している。QU アンケートの結果をもとに学級内の生徒の立場を分析し、生徒一人一人への支援に生かすことができた。また、学級担任だけでなく、学年全員で共通理解を図り、指導に生かしている。

(3) 道徳の授業「ピンクシャツデー」の取り組み(第2学年)

いじめ反対運動「ピンクシャツデー」を扱った道徳科の資料、「明日、みんなで着よう」からいじめについて考え、「心が温かくなる言葉」をピンクシャツのカードに書く活動を行った。(資料2)
誰もが安心して過ごせる社会にするために大切なことについて一生懸命考える姿がみられた。

〈資料2〉



3 成果

コロナ禍で制限もあったが、各アンケートをもとに、一人一人に配慮しながら教育活動を行うことができた。生徒たちはいじめについて真剣に考えたり、何気ない言動が相手や自分を傷つけてしまうことがあることに気付いたりすることができた。

II 今後の課題

QU アンケートで得た情報をどのように生徒に還元していくかをもっと精査していきたい。実践事例を集約し、様々なケースに対応できるようにしたい。また、道徳教育のさらなる充実を図るなどして、お互いに思いやりのある行動ができるような指導を普段から行っていく。

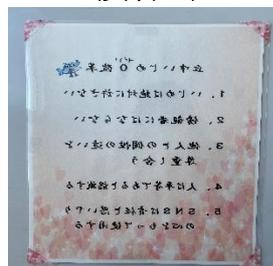
III 人権コーナーの設置の様子

〈資料3〉



昇降口付近に掲示してあるもの。インターネットにおける人権侵害について書かれています。(資料3)

〈資料4〉



各クラスに掲示してある「丘中いじめ改革」。(資料4)